

令和6年度（鶴見高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 課題・目標別実施結果

課題	目標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	教育公務員としての責任を自覚し、法令遵守意識の向上を図り、公務外非行や交通事故を未然に防止する。	<p>職員啓発資料等を活用して毎月職場研修を実施し、教育公務員としての責任感と使命感を再認識させる取組を行った。</p> <p>また、風通しのよい職場環境づくりに努め、相互に相談・指摘できる体制を整えることで法令順守意識の継続を図った。</p> <p>今後も職員間での相互チェック体制を維持しつつ、更なる意識向上に向けた取り組みを推進していく。</p>
職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止	他者の人権を尊重し、良好な職場環境の維持・確保に努め、ハラスメントを防止する。	<p>管理職が常に職場の巡回を行うとともに、教職員に積極的な声掛けを行い、何でも相談できる雰囲気を維持した。</p> <p>また、仲間の小さな変化を管理職に報告したり、業務分担に偏りが生じないように気配りをしたりして、ストレスを抱える職員が出ないように早期の対応を心がけた。</p> <p>今後も、互いの人権を尊重した職場環境の醸成を促進し、あらゆるハラスメントの防止に向けた取組を継続的に推進していく。</p>
わいせつ・セクハラ行為の防止	生徒の人権を尊重し、セクハラやわいせつ行為の発生を未然に防止する。	<p>全教職員に対し、わいせつ行為やセクハラに関する意識向上を図り、懸念事項があれば躊躇なく管理職に報告できる環境を整えた。</p> <p>特にSNSやメールを介した生徒とのコミュニケーションが問題の発端となることが多いため、携帯電話番号・メールアドレスの適切な取り扱いや連絡方法について、定期的に周知し、ルールの徹底を図った。</p> <p>今後も「事故防止会議」等を通じて、対応の適切性を確認するセルフチェックの機会を増やし、問題の未然防止に努めたい。</p>
体罰・不適切指導の防止	生徒の人権を尊重して指導に当たり、体罰・不適切指導の発生を未然に防止する。	<p>教職員に対して、「部活動指導ハンドブック」の閲覧を促し、体罰によらない部活動指導への理解を深める取組を行った。</p> <p>また、日常の指導方法に問題がないか教職員相互で確認できるように、複数名対応を基本とした生徒指導の徹底を図った。</p> <p>今後も生徒の人権を尊重したうえでの生徒指導を実践していきたい。</p>

入学者選抜、成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	マニュアル等を遵守した正確な事務処理の徹底を図るとともに、管理職をはじめ全ての教職員が業務の相互チェックに取り組むことで、事故防止に努める。	該当業務を行う前に、職員全員で点検体制や業務マニュアルを再確認し、業務内容の共通理解を徹底することで、事故防止に努めた。 保存すべき書類の保管場所・保管期間について再確認し、紛失による事故を防ぐ手立てを講じた。 今後も相互確認を徹底し、入学者選抜、成績処理及び進路関係書類に係る事故防止に努めたい。
個人情報等の管理・情報セキュリティ対策	個人情報の適切な取扱いに努め、個人情報の流失を未然に防止する。	情報セキュリティに関する定期的な点検及び研修会を実施し、職員の意識向上を図った。 さらに、教務手帳、答案用紙、成績表、調査書等の重要な個人情報に関して、受け渡し体制及び管理体制を強化した。 今後も暗号化ファイルサーバの活用、鍵付きロッカーでの文書保管の徹底に努め、セキュリティ対策を維持していきたい。
会計事務等の適正執行	公費は神奈川県財務規則、私費は私費会計基準に則った適正な会計事務を行う。	年度当初に、私費会計のルールについて全教職員を対象とした説明会を実施し、年間を通じて適切な会計執行が行われるよう基盤を整えた。 また、年間を通じて、個々の会計処理に対してきめ細かな改善指導を継続的に行い、正確な会計処理の徹底に努めた。 今後も適正かつ透明性の高い会計処理を維持させていきたい。

○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

令和6年度も本校は不祥事なく終えることができた。日頃の職員の事故防止意識の向上が結果に表れたものと考える。今後も、起こりうる事故を常に想定し、未然に防ぐための危機管理能力の向上に努める所存である。

具体的な取組として、次の点に注力した。

- ・校内巡回の頻度を増やし、生徒が安全かつ安心して過ごせる環境の維持を図るとともに、潜在的な危険状況を事前に察知するよう努めた。
- ・個人情報保護の観点から、電子ファイルや書類の管理が適切であるか、改めて確認と見直しを行い、問題ないことを確認した。
- ・定期的に「不祥事防止会議」を実施し、本校でも起こりうる可能性がある過去の事例については、事故が起きない様にする具体的な対策方法の指導に重点を置いた。
- ・不祥事防止は、継続的な啓発と指導が不可欠である。今後も様々な方法を検討し、積極的な取組みを継続していく。